

第六回研究会報告

日本言語文化学会も今回で六回を迎えました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、五十名を超える方の出席がありました。出席者の方の中には、学外からいらしていただいた会員の方、在校生に混じって今春修了された日本言語文化専攻第一期生の方の顔も見られました。

水谷先生の開会の辞のあと、「台湾の東呉大学などにおける研修の報告」、「志賀直哉における父と子の問題」、「文の配列からみた日英の差異」、「縦断的第2言語の習得」という四つの研究発表がありました。日本語教育、日本文学、文章論、言語習得というそれぞれ異なった立場からの報告で、まさにこの研究会にふさわしい言語と文化にかかわる幅広い発表でした。

研究会のあとで、恒例となりました懇親会がなごやかな雰囲気の中で行われました。懇親会は、日頃なかなかお話できない会員の方の交流の場でもありますので、学外の会員の方々、卒業生の方々にもご出席いただけたらと思います。

研究会のあとの総会で承認されましたように、運営委員が一名増えて、折笠撰子さん、川口良さん、大島弥生さん、土谷桃子さん、佐々木泰子の五名で来年十二月まで本会の運営にあたることになりました。本研究会に対するご意見などありましたらぜひお聞かせくださいますようお願いいたします。また、多数の方の研究発表の申込、投稿をお待ちしています。

四月に助手になりまして初めての研究会でしたが、何とか無事に終えることができました。快くお手伝いをしてくださった日本言語文化専攻M1・M2生の方々に、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

多くの会員の方に、次回の研究会でお目にかかれることを楽しみにしております。

(佐々木泰子)